



# 老人クラブをPR、若手の声も取り入れて会員増へ

鳥取県 伯耆町老人クラブ連合会

クラブ数・42 会員数・1821名(男性・759名・女性・1062名)

伯耆町老連では、平成17年度に2638人だった会員が毎年減り続けています。会員の減少を分析すると、退会、会員全体の高齢化による休会、単位クラブ役員が高齢化して後継者がいないため解散するなどの要因があります。会員の減少に拍車をかける実態に危機感をもつて、歯止めをかける必要があります。

本会では加入促進に関連する事業として、平成23年度に会員年齢構成調査、若手委員会設置、24年度に未加入者アンケート、同時に支え合い活動アンケートを実施しました。そして、平成25年度は新規会員加入促進運動を実施、26年度には単位クラブにおける若手活動員の設置を進めています。



ただいまアンケート集計中



スクエアステップで転倒予防、認知機能向上

## 広報活動と老人クラブのPR

老人クラブ活動PRのために、年5回広報誌を発行して全戸(約3500)に配布しています。広報誌作成にあたっては若手委員も編集会議に参加して、若手の意見を取り入れています。広報誌は「老人クラブは何をしているのか分からぬ」という声を少しでも軽減するための大変重要です。

## 若手委員会が進める新規事業

平成25年度からは、新規会員募集のチラシを作成しています。今年度は「老人クラブ活動は地域活動のひとつです。60歳からの時間の9割は自分のためにつかない、残り1割を老人クラブ活動にあててみませんか?」とのキヤッチフレーズで、町内全戸にチラシを配布しました。

また、支え合い活動を前面に打ち出し、少子高齢時代の支え合いの重要性、活動は若手高齢者が支える必要があること、さらには新規加入の呼びかけもいれたDVDを全単位クラブへ配布しました。このDVDは、自治会総会や会合など会員以外の住民にも見ていただき、加入促進にも活用するなど、ことあるごとに放映するように依頼しています。

加入促進運動の結果、2か月間で40人の新会員を獲得することができました。わずかではあっても、新会員が増え続けることが重要です。決して満足できるものではありませんでした。

北から南から  
が、今後も根

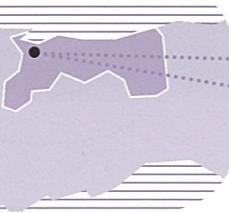
## 今後の会員獲得に向けての課題

現在、次の課題をあげて取り組んでいます。

### 今後の会員獲得に向けての課題

- ①勧誘報奨金新設
- ②全単位クラブへ若手活動員の設置
- ③活動メニューを増やし(新規事業の検討)、体験参加型メニューを作る
- ④会員制度の見直し(賛助会員、永久会員)、会費制度の見直し

(若手委員長 加川重之)



鳥取県  
伯耆町

## 気強く続けてまいります。

本町行政が推奨する介護予防の新しいエクササイズ「スクエアステップ」の取り組みを、若手委員会主催の新規事業として導入しました。スクエアステップと従来から取り組んでいたウォーキングは、本町の「健康ポイント対象事業」においていたまき、新たな層の会員獲得を目指しています。

さらに、各単位クラブに若手活動員を設置することで、新たな仲間づくりがスタートしました。

全地域を挙げて仲間づくりを進めるためには、自治会の協力が必要とされます。「100万人会員増強」を目標にするこそ、自治会長へお願いする時です。

団塊の世代を巻き込んだ仲間づくりは今しかありません。会員がそのことをよく理解して危機感を持ち、全会員、各単位クラブ、連合会が知恵を出し合って仲間を増やそうと奮闘中です。

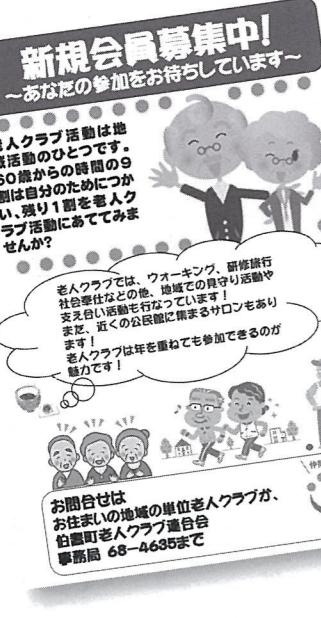
加入促進は、この事業をすれば必ず会員が増えるということではなく、特効薬もありません。結果は別として、新たな試みに取り組む必要があると思います。魅力のある老人クラブづくりは、連合会がいかに音頭取りするかにかかっています。

会員制度の見直し

(若手委員長 加川重之)

北から南から

が、今後も根



- ①勧誘報奨金新設
- ②全単位クラブへ若手活動員の設置
- ③活動メニューを増やし(新規事業の検討)、体験参加型メニューを作る
- ④会員制度の見直し(賛助会員、永久会員)、会費制度の見直し